



当センターの大人気講座である「人物はにわづくり」を7月19日(土)～8月3日(日)の期間で開催しました。

この講座は小松市の重要文化財矢田野エジリ古墳出土埴輪の製作技法を参考に、人物はにわを製作することで、古墳時代の文化の一端にふれることを目的として毎年開催しているもので、今年は期間中に650名以上の方がはにわを製作しました。

参加した体験者は、頭や腕の製作に苦労しつつも、約2時間半かけてそれぞれの作品を仕上げていました。8月23日(土)から本館ホールで返却を兼ねた展示を行いました。それぞれの思いの詰まった夏休みの思い出が並んだ瞬間でもありました。



R7 発掘調査

だいしょうじじょうかまち 大聖寺城下町遺跡 [かがし]

今回調査した大聖寺城下町遺跡は、加賀市大聖寺永町地内に所在する近世の遺跡です。一般県道串加賀線の改築事業に伴い、令和7年5月23日～令和7年8月18日にかけて、620㎡を対象に調査を実施しました。

大聖寺藩は、寛永16年（1639年）に、加賀藩2代藩主前田利常が隠居する際に、三男利治に江沼郡および能美郡の一部を割いて立藩しています。その城下町である加賀市大聖寺は、現在も江戸時代の町割りを色濃く残しています。

今回の調査地点は、国道305号線菅生交差点に面した県道事業地であり、大聖寺城下町遺跡の南東端に位置します。金沢・小松方向からきた北国街道が、かつての大聖寺川を渡り、城下町中心部に向けて、大きく折れ曲がる地点にあたります。

調査の結果、調査区南半部（A区）および北半部（B区）とも、江戸時代後期（18世紀後半）に、それまでほぼ利用がなかった川沿いの土地を大規模に造成していることがわかりました。造成した土の中からは、灯明に用いた完形の土師器皿が約10点出土しています。

敷地造成後は、現代まで何度も土地割りを変えたり、建物を建て替えながら、主に商店・宅地として利用を続けており、多数の大型土坑や小穴を検出しました。遺物は、陶磁器や土師器皿、石製品、木製品、銅銭が出土しています。調査地点は、天明6年（1786）作成の大聖寺絵図に、北国街道に面した「崎野ヤ」「山中ヤ」などの家号をもつ商家が描かれています。

小規模な調査ではありますが、今後の整理作業により、当時の城下町の生活の一端が明らかになることが期待されます。



調査区遠景（東から）



調査区南半近景（A区 北東から）



調査区北半近景（B区 東から）



土師器皿出土状況（南から）

## R7 古代体験

## 第27回古代体験まつり

今年の古代体験まつりは10月5日(日)に開催しました。当日はあいにくの天候のため、屋外テントや館内を中心とした18の体験コーナーの配置となりました。

「縄文弓矢」、「発掘体験」、「火おこし」、「古代衣装試着」など毎年の人気のコーナーは今年も大盛況でした。また、「まが玉づくり」やあじろ編みを体験する「縄文コースターづくり」、「拓本しおりづくり」などは大人も子どもも無心になって製作する様子が見られました。

屋外での土器による調理はできませんでしたが、縄文時代の食材をイメージした「縄文鍋」や「古代米」の試食もふだん味わえないとあって関心をよび、とてもおいしいと好評でした。

ステージイベントは本館ホールで行われました。「火おこしレース」では、二人一組で、もみきり法で早さを競いました。親子部門、一般部門が行われ、チームワークの良さを発揮する様子や、お父さんが一生懸命にがんばる姿が見られ、熱い声援がおくられていました。「まいぶん〇×クイズ」では、正解者が多くてなかなか決着がつかず、年々、参加者のレベルが高くなってきているのが感じられました。「古代の樹木観察」は、傘を差しながらのひろば見学となりました。講師としてお迎えした石川県立自然史資料館の中野真理子副館長から、樹木の特徴のみならず、その実を食料とする動物や鳥などについても詳しく楽しくお話していただきました。雨天のため、毎年大人気の「農園収穫体験」は残念ながら中止、会場も例年より限られましたが、そんな中でも来場者は900人にもものぼり、まつりを楽しむ、にぎやかな声が一日中会場内に響いていました。



縄文弓矢



発掘体験



古代衣装試着



まが玉づくり



縄文コースター



古代米試食



古代の樹木観察



火おこしレース

R7 古代体験

## まいぶん・バックヤード・ツアー

8月12日（火）～8月22日（金）の期間、平日の午前に「まいぶん・バックヤード・ツアー」を実施しました。この行事は、「この先、一般の方は中に入れてません。」と書かれた看板の先に、職員のご案内により一般の方をご案内する施設の見学会です。今年は、社会人の方も参加しやすいよう旧盆期間を含む上記日程で開催し、58名の参加を頂きました。

土器の接合作業や、収蔵庫の中に保管されているたくさんの出土品の状況など、日頃公開されていない施設内の見学会に、参加された方々も興味津々でした。



貝塚の解説



整理作業室の見学



収蔵庫の見学

R7 古代体験

## 親と子の発掘体験教室

「親と子の発掘体験教室」は、9月20日（土）石川県立大学構内の野々市市末松遺跡で開催しました。午前の部10組24名、午後の部9組25名の参加がありました。

はじめに発掘調査と末松遺跡の概要について説明を聞いてから、実際に発掘する体験をしました。初めてとは思えないくらい、きれいに土を掘ることができる人や土の色の違いに気づいて調査員に質問する人などもいて、猛暑にもかかわらず、みなさん熱心に調査を進めていました。

土器などの出土は残念ながらとても少なかったのですが、会場に末松遺跡の過去の調査で出土した古墳時代から中世までの土器を展示し、調査員が解説しました。参加者からはもっと掘ってみたかった、実際に土器を触ってみることができてよかった、発掘や土器にもっと興味がわいた、などの声が聞かれました。



発掘体験の様子



土器が出土しました！



土器の展示と解説の様子

## 『出張！県立図書館でのワークショップ』

令和4年7月に金沢市小立野に移転開館した県立図書館は「県民の多様な文化活動・文化交流の場として、県民に開かれた『文化立県・石川』の新たな“知の殿堂”」を基本コンセプトにしており、開館から各種イベントを実施し、県民の文化的な活動・交流の舞台となっています。

令和7年6月8日(日)、県立図書館の食文化体験スペースで『出張！埋蔵文化財センター組みひもづくりワークショップ』を開催し午前午後合わせて20名の参加がありました。指とひもだけを使った「ループ指操作技法」というワザで製作しましたが、単純ですが小指が主役のワザなので慣れないうちは指が意志どおりに動かずにみなさん悪戦苦闘していました。次第に慣れてきたのか色とりどりの組みひもが完成していました。図書館では関連する図書を会場に用意し、興味を持った事柄を詳しく図書で学ぶことができるよう工夫していただきました。まさに図書館で考古学体験をすることの真髄しんすいといえます。



組みひもづくりの説明



どの色のひもを選ぼうかな



親子で協力して組みひもづくり

さらに、令和7年11月3日(月祝)には『かごづくり』のワークショップを開催しました。こちらも午前午後合わせて20名の方に参加していただき、紙バンドを材料にしましたが縄文時代にもみられるワザを使ってかごの製作を体験していただきました。『組みひも』もそうですが『かごづくり』も古代のワザが現代でも使われることが多く、我々も図書から知識やヒントを得ています。図書館側が用意してくれた図書にも我々が参考にしたものがあり、その図書を前に解説し実演するのは少し決まりが悪かったのですが、埋蔵文化財センターの強みである本物の資料から得られた知見も解説に組み込み、何とか面目を保つことができました。



ワークショップ会場



かごづくり風景



親子で協力してかごづくり

図書館はやはり“知の殿堂”であり、古代体験をきっかけに地域の歴史や考古学に興味を持っていただくには最適の場所だと感じました。今後も県立図書館の協力を得ながら図書館でのワークショップを通じ石川の埋蔵文化財保護行政への理解を得ることに努めたいと思います。

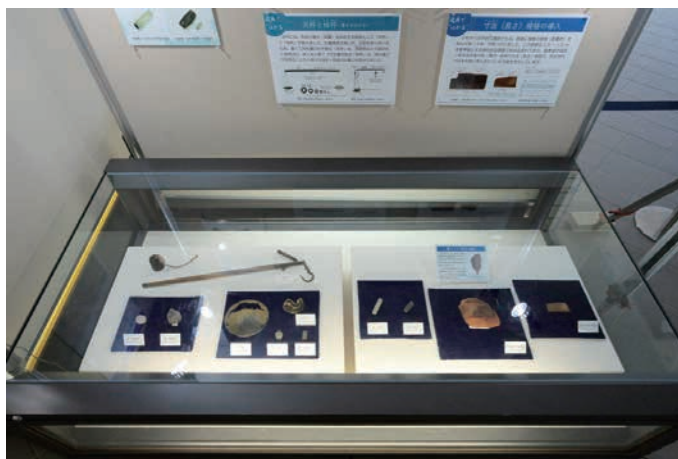
R7 情報発信

## 令和7年度第1回ホール展『遺跡を“はかる”』

「遺跡を“はかる”」と題し、令和7年7月4日(金)から11月30日(日)までホール展を開催しました。さまざまな角度から考古学における“はかる”を紹介する今回の展示では、「時代をはかる」としたコーナーでは考古学の基本ともいえる遺跡の時代をどうやって決めるのかに焦点を当て、「道具ではかる」のコーナーでは最新の研究で明らかになった弥生時代の重さや長さを“はかる”道具について実物展示を交え解説しました。「遺跡をはかる」のコーナーでは発掘調査における記録作業で“はかる”ことの基本を紹介し、特殊な画像から遺跡の情報を得る最新情報も紹介しました。



時代をはかる



道具ではかる

R7 情報発信

## 大阪駅ホクリクプラス『いしかわ埋蔵文化財フェア』

JR大阪駅に隣接するKITTE大阪2階にある富山・石川・福井のアンテナショップHOKURIKU+(ホクリクプラス)で、令和7年10月15日(水)から10月21日(火)まで「いしかわ埋蔵文化財フェア」と題し、埋蔵文化財センターの魅力発信を行いました。

フェアに合わせ埋蔵文化財センター展示室で「チマキ状炭化米塊」「柄付き鉄製ヤリガンナ」「加賀郡<sup>ほうしふだ</sup>榜示札」の実物を展示し、フェアではその実物展示を紹介するとともに、「ヤリガンナ」の体験用復元品も展示しました。KITTE大阪2階フロアには全国各地の物販を中心とするアンテナショップが並んでいますが、HOKURIKU+は物販に加え地域の情報発信も行っており趣が違います。とはいえ、考古資料の展示はHOKURIKU+の中でも特異で、期間中多くの人の目を引き付けていたことは確かなようです。HOKURIKU+の魅力向上と埋蔵文化財センターの魅力発信につながりました。



HOKURIKU+



展示コーナー



フェアの様子

## 令和7年度まいぶん考古学講座

まいぶん考古学講座は、職員が考古学や埋蔵文化財に関する話題や、それぞれの研究分野における最新情報、担当した発掘調査の成果などを、わかりやすく解説する公開講座です。令和7年度は9～11月に3講座を開催しました。

開催日	テーマ	講師
9月7日 (日)	「石川県の高地性集落 ～データから弥生集落を問い直す～」	国関係調査グループ 鈴木 静華
10月19日 (日)	「『柄付き鉄製ヤリガンナ』の復原」	所長 中屋 克彦
11月9日 (日)	「弥生時代の大型建物 ～七尾市矢田遺跡の大型建造物を中心に～」	県関係調査グループ 金山 哲哉

### 【第1回】「石川県の高地性集落」

高地性集落は、従来、中国の歴史書にある「倭国乱」「倭国大乱」といった記述と関連付けられ、防御的性格をもつ集落とされてきました。

講座では最新の研究状況を踏まえ、石川県内の弥生時代集落遺跡の立地に注目し、標高と低地からの比高をグラフ化し、検討結果が示されたほか、高所に立地する集落に見られる遺構の特徴や、出土する遺物の傾向などから、遺跡の性格などについて解説しました。



講座の様子（第1回）

### 【第2回】「柄付き鉄製ヤリガンナの復原」

小松市八日市地方遺跡から出土した「柄付き鉄製ヤリガンナ」は、日本列島で鉄器の生産が行わ

れる以前に、大陸からもたらされたヤリガンナに、八日市地方遺跡で木柄が付けられたものです。

講座では、考古学の一分野である「実験考古学」を紹介し、詳細な分析に基づく復元品の製作工程やその使用方法などを解説しました。

講座の最後には、復元したヤリガンナを使い、実際に木を削るところを見ていただきました。



ミニ展示の解説（第2回）

### 【第3回】「弥生時代の大型建物」

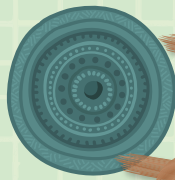
七尾市矢田遺跡で、直径50cmの柱を使用した柱間9mを測る4本柱の大型建物が見つかっています。

講座では、出土した柱根の分析による年代測定の結果や、県内外の大型建物類似例を紹介しながら、集落における大型建物の位置づけや性格などについて解説しました。

また、分析により弥生時代の気候変動についても明らかになることも解説しました。



講座の様子（第3回）



# まいぶん日誌

令和7年  
(2025)

7月～10月



7月

古代衣装を着てみよう



講座「弥生土器づくり」作品展示



「人物はにわづくり」  
作品展示・引き渡し



出前考古学講座



展示「日本最古の出土品」  
チマキ状炭化米塊



いしかわまいぶん博士  
チャレンジ講座①



講座「藍の生葉染め」



いしかわまいぶん博士  
チャレンジ講座②



本館中庭 草刈り作業



展示「日本最古の出土品」  
柄付き鉄製ヤリガンナ



講座「弥生土器づくり」作品の野焼き



まいぶんはにわの日



出前考古学講座



10月

展示「日本最古の出土品」



展示「日本最古の出土品」  
加賀郡榜示札

